

# 名古屋発！ 超高齢社会を生きる！

～わづらわしくも楽しい、住まい・まちづくり～

さまざまな課題が山積する超高齢社会を迎え、私たちはどのように住まい暮らしていくのでしょうか。福祉の基盤ともいわれる住まいは、まちづくりとも密接に関連し、これからの地域社会のありようを考えるうえで欠かすことができない問題です。第9回となる今回のフォーラムでは、これまでのフォーラムで議論してきた、地域における住まいと福祉をつなぎ、地域の活性化を図る「多機能複合」事業の可能性という問題意識を踏まえ、名古屋をはじめとする東海地域において取り組まれている事例を素材に、超高齢社会における住まいとまちづくりのあり方、ビジョンについて議論し、展望していく「名古屋発のもうひとつの住まい方」を全国に発信します。

1. 開会挨拶 小林秀樹（千葉大学教授、もうひとつの住まい方推進協議会代表幹事）
2. 来賓講演 「愛知・名古屋の住まいと政策～高度成長期からの半世紀～」  
星野広美（愛知県建設部技監）
3. 鼎談 「混ざりあい、支えあい、分ちあい」  
吉田一平（長久手市長）、延藤安弘（NPO 法人まちの縁側育み隊代表理事）、小林秀樹
4. 事例紹介 「名古屋発！ 市民・民間事業の試み」  
進行；伊藤雅春（愛知学泉大学教授）  
①株生活科学運営（西尾弘之） ②株ユーライフ（鈴木清隆）  
③南医療生活協同組合（伊藤他美子） ④高蔵寺 NT（曾田忠弘）  
⑤ゴジカラ村（大井幸次）
5. 全体ディスカッション 「超高齢社会を生きる！」  
コーディネーター；伊藤孝紀（名古屋工業大学准教授）  
コメンテーター；成瀬幸雄（南医療生活協同組合） 浦田慶信（株生活科学運営・AHLA 幹事）  
櫻井のり子（金城学院大学教授） 服部政史（株空 建築事務所）



星野広美氏  
ゴジラの日本上陸の年に津島で生まれ、以来1ヶ月以上津島を離れたことはなく、大学卒業の翌日から愛知県で働く。



吉田一平氏  
昭和21年4月生まれ。平成24年1月、市制施行に伴い初代市長に就任。趣味は、人と会うこと、話すこと。



延藤安弘氏  
大阪府生まれ、千葉大学教授、愛知産業大学教授等を経て、現職。著書、まち再生の術語集（岩波新書）等。



小林秀樹氏  
新潟県生まれ、建築研究所を経て現職。住まいと街づくりに関心。著書、居住環境整備論、居場所としての住まい、等。

2013年 11月 17日(日)  
13:00～17:30

南生協病院 コープ健診フィットネスセンター  
JR南大高駅徒歩2分 3階会議室（定員300名）

参加費/一般2000円/学生1000円  
/AHLA会員1000円

主 催：第9回もうひとつの住まい方フォーラム実行委員会  
もうひとつの住まい方推進協議会（略称 AHLA）  
TEL 03-3205-6840 <http://www.ahla.jp>  
後 援：愛知県/名古屋市長久手市/南医療生活協同組合



JR東海道線 南大高駅徒歩2分  
名古屋から5つ目  
(1時間に4本程度) 普通列車のみ  
立体駐車場376台  
国道23号線/名古屋環状2号線「名古屋南IC」